

## 目次

|                |                                                                 |          |
|----------------|-----------------------------------------------------------------|----------|
| ■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報  | 弱含む粉乳相場                                                         | p. 2-3   |
| ■ バター情報        | バター相場 世界的に強い需要に支えられ堅調                                           | p. 3-4   |
| ■ ホエイ情報        | 米国産ならびに欧州産相場、高水準にて推移                                            | p. 5     |
| ■ カゼイン情報       | 相場は横ばい、一部にタイト感も                                                 | p. 5-6   |
| ■ 乳糖情報         | 乳糖相場 潮目に変化が見られる                                                 | p. 6     |
| ■ チーズ情報        | 中国のチーズ状況                                                        | p. 7     |
|                | 米国のチーズ状況                                                        | p. 7     |
| ■ 国内情報         | 不透明感が増す乳製品市場                                                    | p. 8-9   |
| ■ 今月のピックアップ    | 欧州発アジア向け海上輸送に注意報 韓進(Hanjin)破綻の影響も                               | p. 9     |
| ■ アムステルダム駐在員情報 | Royal FrieslandCampina 社の業績 2016 年の結果と 2017 年の見通し               | p. 10    |
|                | Royal FrieslandCampina 社 パキスタン乳業 2 位 Engro Foods 社の株式<br>51%取得へ | p. 10    |
|                | ロシアにおける乳製品消費の減退と大手資本の動き                                         | p. 10-11 |
| ■ メルボルン駐在員情報   | MGC 社 新会長発表 John Spark 氏                                        | p. 11    |
|                | ビクトリア州北部 集乳競争の激化                                                | p. 11    |
|                | A2 ミルク社 Synlait 社株買収                                            | p. 12    |
| ■ 米国駐在員情報      | 2 月の主要 23 州の生乳生産量                                               | p. 12    |
|                | 2 月の全米生乳生産量                                                     | p. 13    |
|                | 1 月のバター、チーズ、NDM/SMP 生産量                                         | p. 13    |
| ■ 中国駐在員情報      | 天津輸出入検疫検疫局、子供向け輸入発酵乳 88 ケースを廃棄                                  | p. 13    |
| ■ 主要生産国の現行乳価   |                                                                 | p. 14    |
| ■ 出典           |                                                                 | p. 14    |

## ■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

### 弱含む粉乳相場

粉乳相場は軟調に推移している。オセアニアは閑乳期に差し掛かり供給にタイトさが見られる一方、欧州と米国の生乳生産量は好調に推移している。今月行われた GDT の平均価格は全粉乳、脱脂粉乳ともに前月比大幅に下落。市場を牽引していた欧州産の粉乳価格にじりじりと迫ってきている。米国は好調な生乳生産を背景に粉乳在庫が増加。相場も弱含みにて推移している。

#### 欧州

欧州の生乳生産量は季節的要因で増加しており、欧州全体で 2016 年を若干上回ると期待されている。しかしながら主要生産国であるドイツ、フランスについては前年比約 1.5-3.0%減少している模様。2017 年 1 月の主要国の平均乳価は約 32 ユーロセントであった。

欧州産脱脂粉乳は軟調に推移している。政府介入在庫においては定期的に放出入札を行っているものの、予想よりも買い手が見つからず、また、今後生乳生産のピークに差し掛かることから、引き続き域内の在庫が増える可能性が考えられる。

欧州産全粉乳も若干弱含みにて推移している。オセアニア産に比べて価格はまだ高いものの、以前と比べると価格差は縮まってきており、新規需要者からの引き合いが増えている。ただ基本的には EU 域内向けがメインである。

#### オセアニア

豪州の 2017 年 1 月の生乳生産量は前年同月比 -5.9%の減少となった。主要生産地であるビクトリア州は -7.2%の減少、ニューサウスウェールズ州では -8.4%の減少となっている。2016 年 7 月～2017 年 1 月までの累計を見てもクイーンズランド州を除くその他の州は前年同期比で減少しており、ビクトリア州は -9.5%、ニューサウスウェールズ州は -6.6%の減少であった。今後も季節的要因で生乳生産量は減少していくことが予想され、供給がタイトになることが見込まれる。

ニュージーランドの 2017 年 1 月の生乳生産量は 241 万トンで、12 月の 269 万トンからじりじりと乳量が減少しているものの、予想よりも減少率は抑えられた模様。新シーズンの乳量は今シーズンよりも伸びることが期待されており、このまま相場が低迷し続けた場合、乳価の下落が懸念されている。

オセアニア産脱脂粉乳は先月に比べ下落した。欧州産と比較するとまだ若干高いものの、その差は縮まってきている。3 月 21 日に行われた GDT の平均価格は USD1,948/MT(本船船側渡し価格)となっており、2 月 21 日に行われた USD2,574/MT と比較すると -24.3%の減少であった。

オセアニア産の全粉乳も前月比で下落した。脱脂粉乳に比べ減少率は低いものの、3 月 21 日に行われた GDT の平均価格は USD2,855/MT となっており、2 月 21 日に行われた USD3,189/MT と比較すると -10.4%の減少であった。豪州の脱脂粉乳及び全粉乳の 2016 年 7 月～17 年 1 月までの輸出量はそれぞれ -17.1%、+33.3%となっており、競争力に劣る脱脂粉乳については他地域に需要が分散する形となった。

#### 米国

米国の 2 月の生乳生産量は前年同月比 +2.3%となった。しかしカリフォルニアやオレゴン、ワシントン州が位置する西部は悪天候が影響して -2.0～-2.3%減少している。脱脂粉乳は弱含みにて推移しており、欧州産よりも若干高いレベルであるが、価格差は更に縮まってきている。

#### 今後の見通し

脱脂粉乳、全粉乳の相場は軟調に推移している。オセアニアは閑乳期に差し掛かり、今後、供給はタイトになってくることが予想されるため、益々欧州、米国産の粉乳に需要が集まることが予想される。

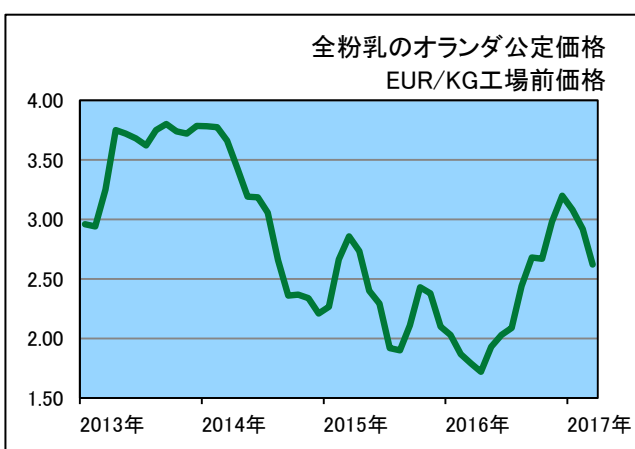
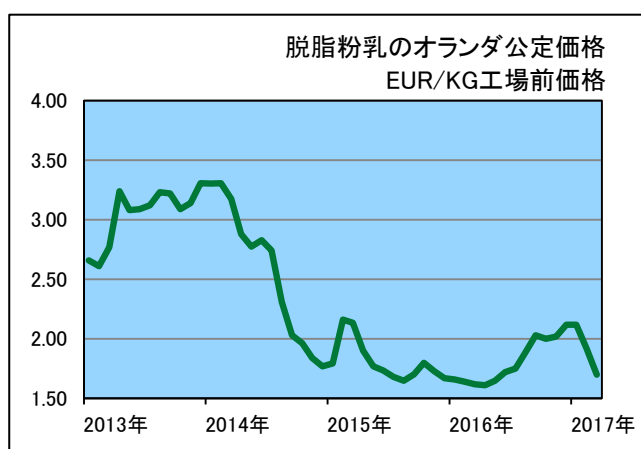
中国では粉乳の輸入量が増加している。2017 年 1 月～2 月の輸入量は、前年同期比で +3.9%増加しており、最大輸出国のニュージーランドは全体の 90%を占めた。続いて多かったのは欧州産で前年同期比 58%増の 13,700 トン、輸

入量全体の 6.3%であった。中国からの引き合いが欧州で船が混雑する要因の一つになっており、今後の状況を注視する必要がある。

EU の政府介入在庫に対する需要者の興味が薄れている一方、政府としては 35 万トンを落札してもらう必要があるはずで、市場に流通すれば供給量が更に増えて相場に影響をもたらすことが考えられる。市場を牽引する欧州市場に注視し、適切なタイミングでモノを確保していきたい。

現在の粉乳取引価格

|                                 |   |                                      |
|---------------------------------|---|--------------------------------------|
| EU 産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)   | : | USD 2,000 – 2,400/MT CFR ASIAN PORTS |
| EU 産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)    | : | USD 3,400 – 3,800/MT CFR ASIAN PORTS |
| オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 2,200 – 2,600/MT CFR ASIAN PORTS |
| オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)  | : | USD 3,200 – 3,600/MT CFR ASIAN PORTS |
| 米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)    | : | USD 2,100 – 2,500/MT CFR ASIAN PORTS |



<清水>

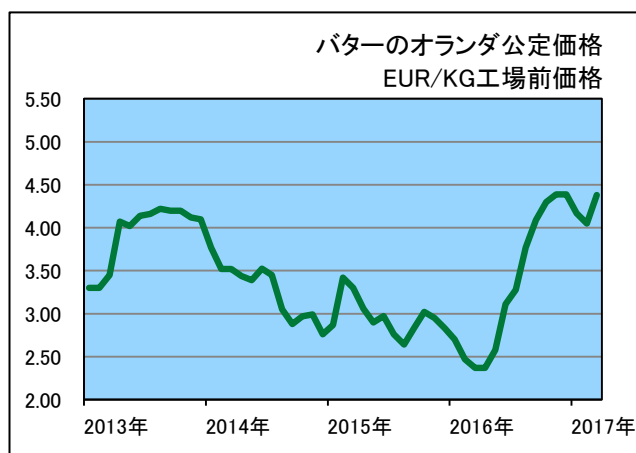
■ バター情報

■ バター相場 世界的に強い需要に支えられ堅調

欧州

若干軟化傾向にあった前月から一転して 3 月の欧州バター相場は上昇した。国によって価格上昇幅は異なるものの、全体的に堅調に推移、特にオランダでの価格上昇が顕著であった。需要面ではバター及び乳脂肪の需要が引き続き非常に好調である一方で、EU 主要 28 か国の 2017 年 1 月のバター製造量は前年同月比で 0.8%減と若干下回り、国別に見るとバターの主要生産国であるオランダが 14.3%減と大きく下回った。

オランダでは、EU で各国ごとに定められた(家畜の糞尿に含まれる)リン排出規制基準値を守るために乳牛頭数を 16 万~17 万 5 千頭減らした。その結果、2017 年のオランダの生乳生産量は前年比約 100 万トン減少すると見込まれており、これがバター生産量の前年比大幅減の主要因となっていると思われる。



2017年1月末のPSA(民間補助在庫)バター在庫量は15,897トンと前月比35.6%減となった。主な内訳はオランダ7,112トン、アイルランド3,911トンであった。

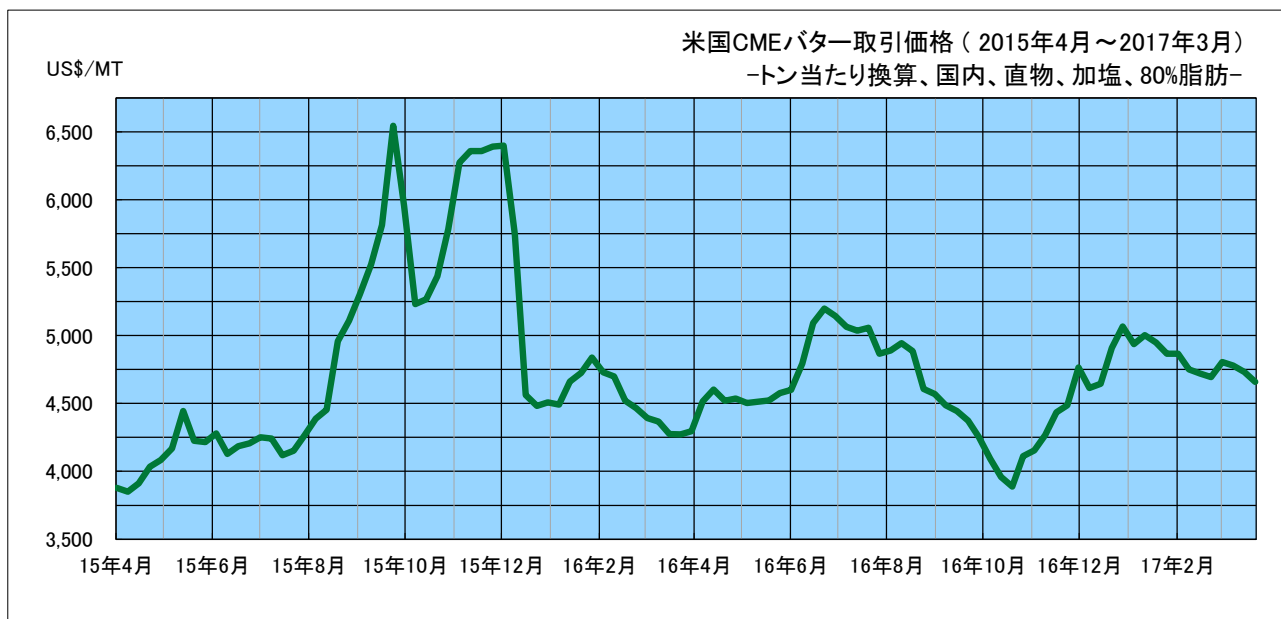
### オセアニア

オセアニアのバター相場も堅調に推移している。豪州の生乳生産量は2016年12月時点(累計6か月)で前年比8.5%減、製品別に見ると、チーズの生産量は0.7%減と小幅減に留まっている一方、バターの生産量は13%減と大幅に減っており、このことからチーズの生産を優先していることがうかがえる。バターのオファーが入手困難な状況が続くが、価格のみではなく生産量動向にも注視していく必要がある。

3月のGDTオークションは、1回目のAMF平均価格がUSD5,653/MT FAS(船側渡し)と前回(2017年2月21日)比0.7%減、バター平均価格はUSD4,653/MT FASで前回比1.2%増、2回目の平均価格はAMFがUSD5,799/MT FASで前回比2.6%増、バターはUSD4,910/MT FASで5.5%増であった。

### 米国

3月の米国バター相場は堅調に推移した。2017年1月末時点における米国バター在庫量は1995年以降で過去最高水準を記録した一方で、米国内のバター需要が非常に旺盛であり、前月よりも価格が上昇した。バターの需要が好調な背景として、以前から報じている通りマーガリンからバターへと回帰していることが引き続き挙げられ、大手外食チェーンでも「(純粋な)バター使用」を謳いだしているとの話もあり、内需が強い状況は続いていくものと考えられる。



#### 2017年3月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.08)

|                    |   |                                     |
|--------------------|---|-------------------------------------|
| EU産バター価格           | : | USD5,150 - 5,350/MT CFR ASIAN PORTS |
| NZ産バター価格           | : | USD4,900 - 5,200/MT CFR ASIAN PORTS |
| 豪州産バター価格           | : | USD5,000 - 5,300/MT CFR ASIAN PORTS |
| 米国産バター(無塩 82%脂肪)価格 | : | USD5,300 - 5,600/MT CFR ASIAN PORTS |

<吉田>

## ■ ホエイ情報

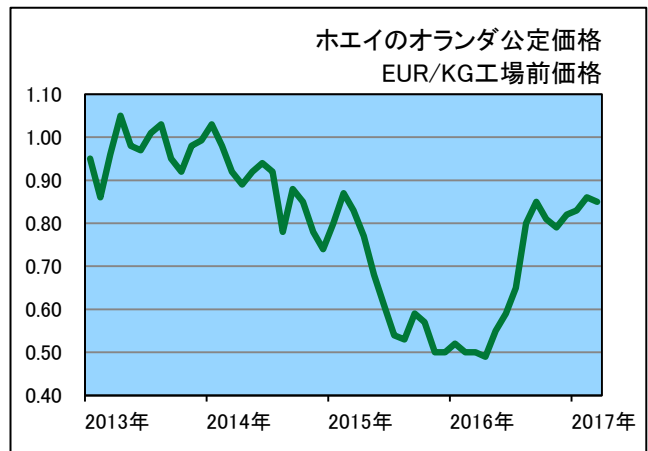
### ■ 米国産ならびに欧州産相場、高水準にて推移

米国内の需要増加に伴い米国産ホエイパウダーの相場は高水準で推移している。しかしながら相場が高騰している影響で東南アジアからの引き合いは弱まりを見せており、さらに中国国内に十分な在庫があることから今後の米国産相場は徐々に落ち着いていく可能性があると思込まれる。NASS(米国農務省全国農業統計局)によると、2017年1月の米国ホエイの生産量は3万6千トンで前年同月比0.8%減となっている。

欧州産相場もEU域内の需要ならびに輸出が好調であることから高水準で推移している。相場は現行水準のまま横ばいで推移していくと予想はされているが、米国産相場に押され弱含む可能性もある。

米国産 WPC-34 の相場も横ばいで推移している。育児粉乳向けなどの高規格品は高値で取引されているが、安価な脱脂粉乳/NFDMへ使用を切り替えている需要家もあり、今後は横ばいもしくは弱含みで推移していくと思込まれる。NASSによると、2017年1月の米国 WPC-34 (25.0-49.9%) の生産量は6,800トンで前年同月比0.4%減、同月末時点の在庫量は8,700トンで前年同月比31.3%減となっている。

<高野>

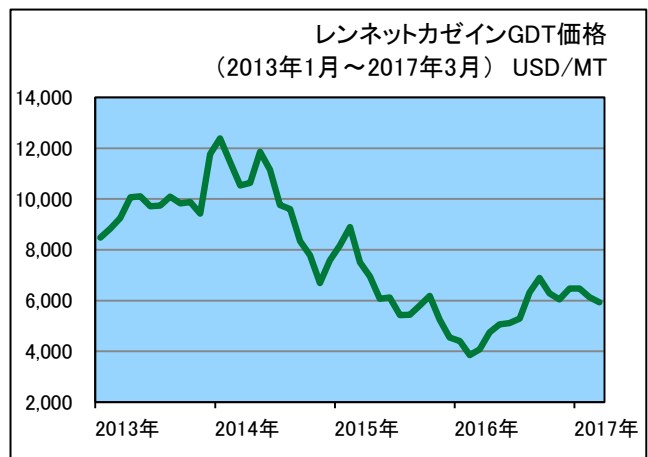


## ■ カゼイン情報

### ■ 相場は横ばい、一部にタイト感も

カゼイン価格と相関関係の強い脱脂粉乳価格は、欧州、オセアニアともに下落基調にある一方、カゼインについては脱脂粉乳相場とは異なり、横ばいから堅調に推移している。

供給に関しては、ニュージーランドにおける生乳生産量が天候不順により前年比大幅な減少が見込まれていたものの、実際は減少することなく順調に推移しており、カゼイン生産も順調である。一方で欧州においても引き続き生乳生産は順調となっているものの、酸カゼインについては一部の欧州サプライヤーが採算性の問題でカゼイン生産を止めたことからタイトな状況となっ



レンネットカゼイン GDT 過去3カ月の落札価格

| 入札日        | カゼイン(単位:MT) |
|------------|-------------|
| 2017年1月3日  | USD 6,234   |
| 2017年1月17日 | USD 6,470   |
| 2017年2月7日  | USD 6,445   |
| 2017年2月21日 | USD 6,135   |
| 2017年3月7日  | USD 5,678   |
| 2017年3月21日 | USD 5,927   |

ている。レンネットカゼインの生産については比較的安定して推移している。

上記状況を受け、酸カゼインのユーザーは早めの手当てに動いており、既に第3四半期分までの買付けを済ませ、一部は年内分までの手当てに動いている。このため、カゼインのタイト感に拍車がかかり、酸カゼイン価格は大きく上昇している。

今後については、脱脂粉乳価格が低迷していることから、一部メーカーにおけるカゼイン供給減少による価格上昇も短期的と思われ、カゼイン相場の下げ圧力は強まる事が考えられ、価格上昇一辺倒ということにはならず落ち着きを取り戻すものと思われる。

<藤井>

## ■ 乳糖情報

### 乳糖相場 潮目に変化が見られる

#### 欧州

欧州乳糖相場は大きな変動なく横ばいにて推移している。生乳生産量は前年比減少しているものの前月に比べれば増加しており、チーズ生産も順調に行われている。よって原料ホエイ及び乳糖の生産も安定して推移している。需要面においては、EU域内、中国のみならず中東や南アメリカといった新興国からも乳糖を含む乳製品一般の引き合いが旺盛であり、需要は安定している模様。

一方、脱脂粉乳の相場が下落傾向のため、今後中長期的には脱脂粉乳の製造量は減少傾向にて推移すると思われる。脱脂粉乳の蛋白調整用途としての乳糖需要は減少する一方で、チーズ生産増によるホエイ及び乳糖の生産量が伸び、これまで堅調に推移していた相場の潮目が変わっていく可能性が考えられる。

#### 米国

米国産乳糖相場は欧州相場と同様に大きな変動は見られず、横ばいを維持している。欧州と同様に堅調に推移していた相場が、需給バランスが整うことによって徐々に落ち着きを見せている。前月に引き続き生乳生産量は増加しており、2017年1月のチーズ生産量も前年比3.7%増と順調。よって原料ホエイも十分に確保され、特に高タンパクホエイ製品が多く製造されている。1月のホエイパウダー生産量が前年同月比1.3%減のところ、WPC80は4.4%増、WPIは同月比で12.8%増加した。その結果、乳糖の生産量も前年同月比で9.0%増と順調に増えている。需要面では、細かい200メッシュや厳しい規格の乳糖は育児粉乳や製菓向けで引き続き高い需要が見られるものの、供給も増えているため、徐々に適正在庫水準に戻りつつあるとみられる。また、南半球が季節的に生乳の生産量が落ち込む時期のため、蛋白調整用途での乳糖需要もひと段落しているようだ。

今後の相場に関しては、オセアニアからの需要も一服しており大きな変動要因もないため、しばらくは横ばいのままと考えられる。

<作田>

国別乳糖輸入量:2月時点の累計(単位:トン)

|          | 2016年  | 2017年  | (%) |
|----------|--------|--------|-----|
| オランダ     | 1,080  | 1,231  | 14  |
| フランス     | 193    | 190    | -2  |
| ドイツ      | 2,603  | 1,915  | -27 |
| カナダ      | 336    | 356    | 5   |
| 米国       | 7,391  | 7,278  | -2  |
| 豪州       | 48     | 0      | -   |
| ニュージーランド | 382    | 424    | 11  |
| その他      | 666    | 380    | -43 |
| 合計       | 11,975 | 11,775 | -2  |

米国からの乳糖輸出力(2017年1月)

|             |           |
|-------------|-----------|
| 1. メキシコ     | 5,601 トン  |
| 2. 中国       | 5,127 トン  |
| 3. 日本       | 3,907 トン  |
| 4. ニュージーランド | 2,503 トン  |
| 5. シンガポール   | 1,717 トン  |
| 6. インドネシア   | 1,491 トン  |
| 7. フィリピン    | 786 トン    |
| 輸出力総計       | 26,399 トン |

米国の乳糖生産量と在庫量(2017年1月)

|       |          |          |
|-------|----------|----------|
| 乳糖生産量 | 41,811トン | 前年比9.0%増 |
| 月末在庫  | 49,441トン | 前年比5.6%減 |

## ■ チーズ情報

### 中国チーズ状況

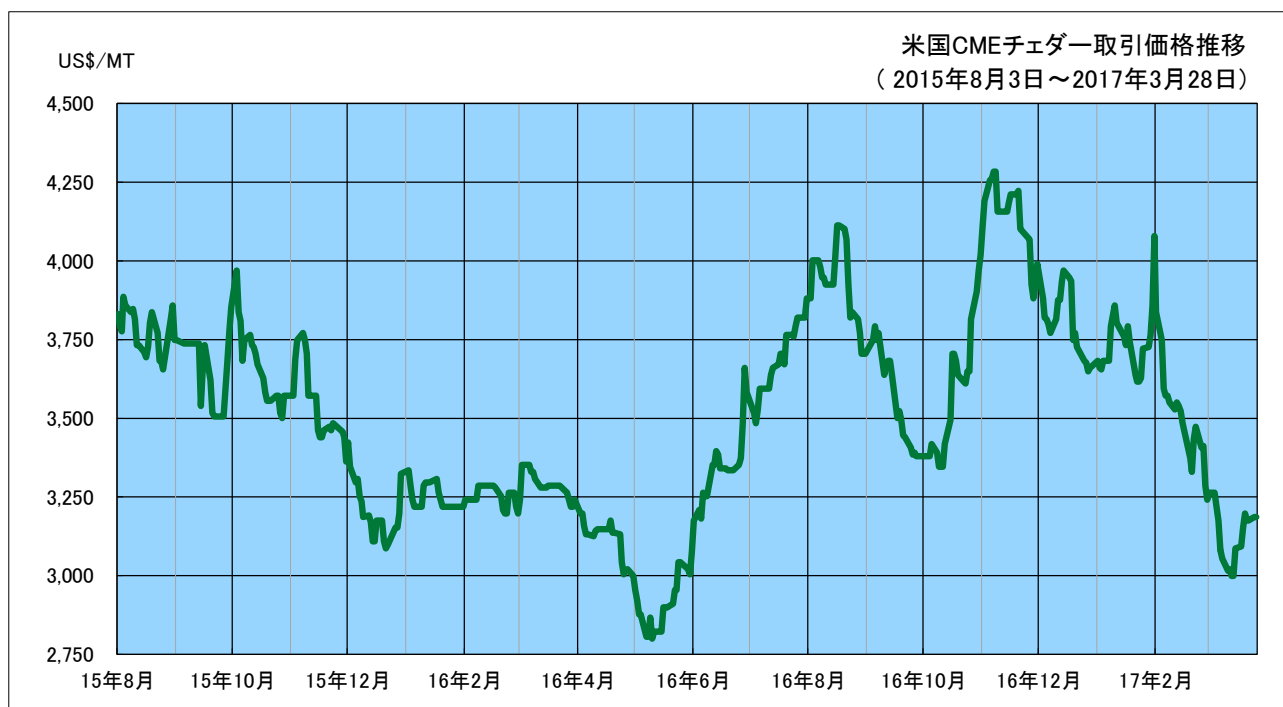
Daily Dairy Report 3月27日号によると、中国の2017年2月のチーズ輸入量(H.S code 0406 <sup>※</sup>)は、約9,500トンと、前月比では殆ど数量は変わらなかったものの前年同月比では約41%の増加となった。

中国主要都市部の人口増加及び食生活の欧米化の進行により中国国内におけるチーズ需要は年々高まりをみせており、大手乳製品メーカーである Fonterra や FrieslandCampina は中国国内にテストキッチンを設け、国内の料理人を招き、乳製品を使った調理法を教える普及啓発活動を行っている。代表的な中国料理である北京ダックを用いたピザや、同じく代表的な菓子である月餅にチーズの使用を提案する等、中国人に馴染み深い料理や菓子にも乳製品の使用を勧め、更なる消費拡大を図っている。今後も若い世代を中心にチーズの国内需要はさらに伸長していくと思われ、その購買力は無視出来ない存在となっている。

※H.S. code 0406 にはナチュラルチーズ、プロセスチーズが共に含まれる。

### 米国チーズ状況

Agra Net 3月24日号によると、2017年2月末の米国国内のナチュラルチーズ在庫量は約56万7,500トンと、前年同月比で約6%増となった。前月比でも約3%増加しており、国内在庫量は月を追う毎に積み上がっている。潤沢な在庫量と前月より継続している米国国内の活発な生乳生産により、チェダーチーズの CME 現物相場(現地工場からの庫前渡し条件)は、3月1日のUSD3,286/MTから徐々に軟化し、3月15日にはUSD2,999/MTまで値を下げた。その後価格は持ち直し、3月28日のUSD3,186/MTまで値を戻しているが、上記の状況が続く様であれば今後も価格は軟調に推移することが予想される。しかし、これから生乳生産のピークを迎える欧州、そして昨年が生乳生産の減産により相場高が続いている豪州、これらの国々の今後の相場状況によっては CWT(輸出助成金)が変動し日本への輸出価格に大きな影響を及ぼすことも考えられる。



<小林(陽)>

## 国内情報

### 不透明感が増す乳製品市場

#### 生乳生産

農林水産省が発表した2月の全国生乳生産量は56万6,357トンで前年同月比4.9%減と大幅な落ち込みとなった。地域別では北海道が29万7,129トンで前年同月比5.1%減、都府県は26万9,228トンで前年同月比4.6%減となっている中、2月のホクレンの生乳道外移出量が前年比22%増の約2万6,600トンと大幅に拡大しており、北海道の乳業メーカーは乳製品向け生乳を十分に確保できない状況が続いている。

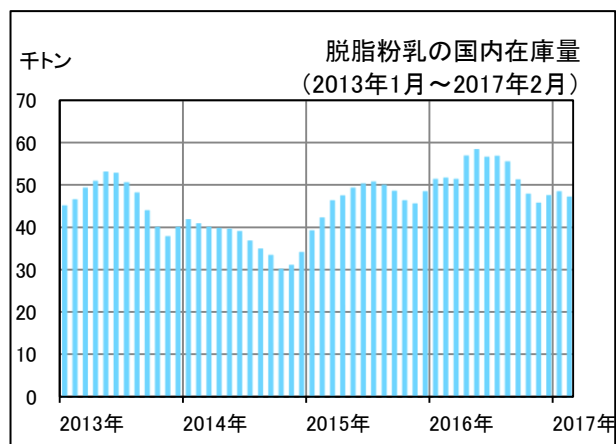
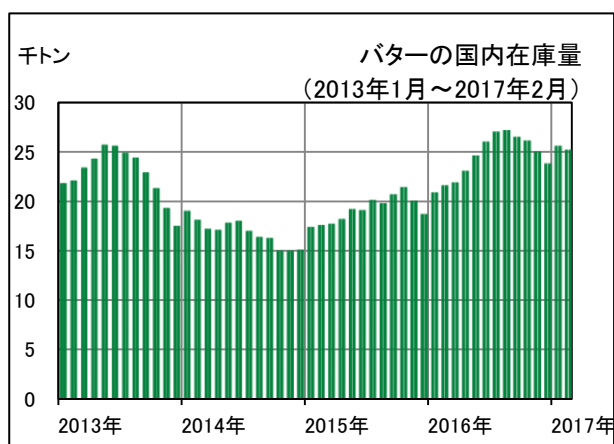
ホクレンは3月10日、乳製品向け生乳6万トンの一般競争入札を実施し、全量落札された。応札数量は26万トン、競争倍率は4.33倍。今後の乳製品市況が不透明であることから乳業メーカー間の競争が過熱し、平均落札価格は¥97.67円/kg(税抜)となり、来年度の脱脂粉乳・バター等向け乳価(¥75.46/kg)や生クリーム向け乳価(¥81.50/kg)に、加工原料乳生産者補給金(¥10.56/kg)を加えた額を上回る高値となった。最高落札価格は¥108/kgと飲用向け乳価(¥117.4/kg)に迫る水準であった。

#### バター

農林水産省が発表した2月のバター生産量は4,883トンで前年同月比17.8%減、在庫量は25,312トンで前年同月比16.9%増となった。農畜産業振興機構は3月9日、2016年度追加輸入枠のバター2104.5トンの売買同時入札(SBS)を実施、落札数量は596.6トンで落札率は28%、売渡平均落札価格は¥832.644/kgであった。同月23日には2016年度追加輸入枠のバター1507.9トンの一般入札を同機構は実施、落札数量は1336.4トン、落札率は88.6%、落札平均価格は¥766.226/kgといずれの入札でも各社の在庫が満たされている状況を反映した落札価格となっている。

#### 脱脂粉乳

農林水産省が発表した2月の脱脂粉乳生産量は9,425トンで前年同月比14.0%減、在庫量は47,269トンで前年同月比8.8%減となった。農畜産業振興機構が3月2日実施した2017(平成29)年度カレント・アクセス枠6,000トンの売買同時入札(SBS)では応札数量1万8,745.8トンで競争率は3.12倍、売渡落札平均価格は¥733.207/kgと2月21日開催分に続き¥700/kgを超える異常な高値の結果となった。生乳生産の落ち込みならびに脱脂粉乳製造量が減少、さらに牛乳および発酵乳などの売れ行き好調により各社脱脂粉乳の積み増しが不十分な状況で今後の国内の生乳生産量の動向ならびに農畜産業振興機構の輸入動向に注視する必要がある。





## 生乳生産量

(単位:千トン)

|         | 生乳生産量 | 用途別内訳 |       |       |       |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
|         |       | 牛乳等向け | 乳製品向け |       | その他   |
|         |       |       | 内業務用  |       |       |
| 2017年2月 | 566.4 | 303.7 | 22.0  | 258.5 | 4.2   |
| 前年同月比   | 95.1% | 96.8% | 90.6% | 93.3% | 92.0% |

## 2016年度、バター需給予想

(単位:トン)

|       | 生産量    | 前年比    | 消費量    | 前年比    | 在庫量    | 前年比    | 月数  |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 第1四半期 | 18,335 | 106.7% | 15,740 | 91.7%  | 26,145 | 136.5% | 4.2 |
| 第2四半期 | 14,380 | 97.8%  | 13,927 | 84.6%  | 26,598 | 127.9% | 4.3 |
| 第3四半期 | 13,874 | 93.8%  | 24,589 | 107.5% | 23,883 | 115.4% | 3.8 |
| 第4四半期 | 17,413 | 88.7%  | 15,984 | 87.5%  | 25,312 | 114.8% | 4.1 |
| 合計    | 64,002 | 96.5%  | 70,240 | 93.9%  | 25,312 | 114.8% | 4.1 |

※在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

## 2016年度、脱脂粉乳需給予想

(単位:トン)

|       | 生産量     | 前年比    | 消費量     | 前年比    | 在庫量    | 前年比    | 月数  |
|-------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|-----|
| 第1四半期 | 33,574  | 101.4% | 33,290  | 94.6%  | 56,763 | 112.5% | 4.7 |
| 第2四半期 | 27,213  | 95.0%  | 36,908  | 106.2% | 51,368 | 105.6% | 4.3 |
| 第3四半期 | 29,827  | 94.9%  | 35,535  | 90.9%  | 47,660 | 110.8% | 4.0 |
| 第4四半期 | 34,579  | 93.5%  | 37,970  | 120.5% | 47,269 | 91.8%  | 4.0 |
| 合計    | 125,193 | 96.2%  | 143,703 | 102.2% | 47,269 | 91.8%  | 4.0 |

※在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

&lt;高野&gt;

## ■ 今月のトピックス

### ■ 欧州発アジア向け海上輸送に注意報 韓進(Hanjin)破綻の影響も

現在、欧州発アジア向け航路におけるドライ(常温)及び冷蔵コンテナの供給が非常に逼迫している。海運業界第7位の韓進海運が2016年8月に破産したため、欧州航路のコンテナ船の供給が減少していたところに中国からの旧正月明けの非常に強い需要があり、ハンブルクやロッテルダム等の欧州主要港のコンテナヤードには本船に積みきれなかったコンテナが積み上がり船積遅延が頻発している。欧州大陸では、ライン川最下流域にあたるオランダで運河が日常的に利用されているほか、大河川には河口のみならず中下流域にもコンテナ船が停泊可能な内陸港が敷設されている。海から約100kmのハンブルク港を下流域に擁するエルベ川は物流大動脈の一部を担っているが、このエルベ川や各港で水位低下が発生しており、喫水問題による積載重量制限が本件に追い打ちをかけている。

近年海運業界では激しい価格競争により海上運賃が極めて低い水準で推移していたが、今回の件を受けて各船社とも欧州航路の大幅な値上げを実施しており、40フィートのドライコンテナは約3倍、同冷蔵コンテナではUSD1,000以上の値上げがなされた。また欧州航路同様に北米航路も供給がタイトになっている模様で、海上運賃は大幅な上昇となっている。本邦入港スケジュールに余裕を持った本船手配が必要なのは言うまでもないが、コンテナの供給タイトな状態が続くと更なる値上がりも考えられるため注視が必要である。

&lt;小林良&gt;

## ■ アムステルダム駐在員情報

### Royal FrieslandCampina社の業績 - 2016年の結果と2017年の見通し

オランダ乳業会社大手の Royal FrieslandCampina(RFC)社が2016年の業績を発表した。売上は前年比1.9%減の110億ユーロ(1兆3,200億円)、利益は前年比5.5%増の3億6,200万ユーロ(434億円)と減収増益であった。全体としては、アフリカ及び中東における不安定な政治や経済状況の増幅が負の要因となり、それを5月以降の欧州の生乳生産量の減少をきっかけとしたチーズ及びバターの機動的な値上げでカバーしたとしている。乳製品相場の低迷による製品単価の下落と為替相場の影響で減収となったが、特にアジア圏での育児粉乳を含めた高付加価値商品の販売の伸び、後半の一般乳製品の販売価格の回復、仕入れコストの削減などにより増益となった。販売数量は、傘下酪農家の生乳生産の増加と製品単価の低位推移により、前年比で増加した。酪農家からの受け入れ乳量は、生乳生産割当が撤廃されたこともあり、前年比7.1%増の1,080万トンであった。平均乳価は前年比6.9%下がり、32.26ユーロセント/リットルであった。

2017年については、世界の生乳生産のある程度の増加、EUの生乳生産の微増、リン酸塩排出規制によるオランダの生乳生産の減少、欧州の乳製品需要の安定又は若干の減退傾向、アフリカ・中東・南米での消費減退、アジア特に中国での乳製品需要の若干の増加、これらの要因により乳製品価格は2016年末から2017年始めのレベルでの変動が続くと予想した上で、製造能力の拡大と研究開発を中心に約5億ユーロ(600億円)の投資を予定している。特に研究開発への投資は前年比約10%増やす。また、事業を乳製品の生産へより集中する計画で、傘下のジュース・清涼飲料会社であるリーデル社(在オランダ、売上高1億2,500万ユーロ(150億円))の売却も検討している。一方、売上高は、乳製品全体の価格上昇、高付加価値商品の拡販、企業買収、これらによる増加を見込んでいる。受け入れ乳量が同社の生乳処理能力を超えないために、同社傘下の酪農家に対し本年1月9日から2月末までの期間限定で減産奨励金と減産しきれない酪農家への課徴金による生乳受け入れ抑制を既に行い5万3千トンの集乳量削減を実現したが、その後は、3月1日よりオランダで施行されているリン酸塩排出規制によって生乳生産量が自然に調整されていくと考えている模様。

### Royal FrieslandCampina社 パキスタン乳業2位Engro Foods社の株式51%取得へ

RFC社は、パキスタン第2位の乳業メーカーである Engro Foods 社の株式51%を取得する手続きを進めている。Engro Foods社の親会社である Engro Corp社から譲り受け Engro Corp社も大株主として残る。現時点では買収費用は約5億ドル(550億円)と見られ、その内1億4,500万ドル(160億円)の融資をICF(国際金融公社)から、4,500万ドル(50億円)をオランダの開発銀行FMOから受ける計画。

パキスタンの生乳生産量は年間3,800万トンで世界第3位の生乳生産国である一方で、一人当たりの生乳消費量は世界のトップレベルであるため、恒常的に輸入に頼っている状態である。また、産業の近代化の遅れや冷蔵・冷凍流通網の未整備のため自国の生乳を十分に加工できおらず、同国の生乳加工量は全体の10%以下に留まり、消費のほとんどは家庭でそのまま沸かして飲まれているのが実情と言われているが、所得者層の増加により高品質の牛乳を求める需要が存在すると見られている。RFC社は、中期戦略として中央アジアの開拓を掲げており、パキスタンを世界で最も中流階級の成長が早い国の一つと位置付け、パキスタン政府の農業酪農政策とも合致するかたちで Engro Foods 社の株式取得をその第一歩とする。

Engro Foods社は、RFC社と連携しパキスタンにおける乳製品加工の近代化を推し進めたい考え。因みに同社は、1,600か所以上の集乳所で15万軒の農家から年間30万トンの生乳を集めるが、5,000頭以上の牛から毎日35トンの生乳を生産する自社農場も保有している。

### ロシアにおける乳製品消費の減退と大手資本の動き

PepsiCo社は、ロシア南西部ヴォロネジ州ある乳製品工場を売却する方針。長期的成長のための乳業の最適化と

いう方針で大規模工場を重視し老朽化した小規模工場を手放す。同社はロシアで20以上の事業所を保有しており乳業ではDanone社に次ぐ第二位の規模で展開しているが、最近2年間で二つの果汁工場を売却しており、これが3件目となる。一方で同社は昨年末の発表の通り、同じ南西部のクラスノダールに40億円で新たな乳製品工場を来年前半までに建設稼働させる。Danone社についても既に製造拠点の絞り込みを行っており、2年前から同国内数か所の工場を閉鎖又は売却している。

これらの現象はロシアの禁輸とは切り離せない動きで、禁輸後のまがい物の流通による乳製品消費の減退が背景にあると見られている。元々ロシアの乳製品消費は着実に増えていたが、同国経済の低迷と禁輸により本物を装った商品や粗悪品が増えたと言われている。ロシア農業省も四つに一つの商品がそのどちらかと認めている由。この3年間で国民一人当りの牛乳及び乳製品の消費量は15%減少したという。同農業省は、偽造品が市場に多く見られることを非難。牛乳や乳製品に乳由来以外の添加物や植物油が使用されている。例えばパーム油は、禁輸が発動された後2015年には輸入が25%以上急増し90万トン近くに達し、2016年は0.45%の微減で状況は変わっていない。一方では、乳価が上がっても零細な家族経営の酪農家が立ち行かなくなったという事情もある。乳製品の価格は、この1年間で牛乳が16.9%、バターが12.3%、チーズが11.4%上がったが、植物油を使用した製品は、はるかに安い価格で売られ市場を混乱させている。市場には低品質品を除いた偽造品だけで10%以上が出回っており今後増える可能性もあり、サンクトペテルブルク等いくつかの地域ではさらに多くの偽造品占有率となっているという。生乳の品質が悪いことも同国政府の認めるところで、菌数はEU諸国の5~10倍、抗生物質の検出率も増える傾向にあるという。

<阿部>

## ■メルボルン駐在員情報

### ■MGC社 新会長発表 John Spark氏

3月30日、MGC社は長年勤めていたPhilip Tracy会長が辞任し、新しい会長としてJohn Spark氏が就任することを発表した。Spark氏はTracy会長が退任する翌日の4月1日に正式に就任する予定。Tracy氏は6年間の会長職を終え、新しい会長Spark氏に託す。Spark氏は、2010年から2015年まで家畜向け飼料、栄養食品などを製造するRidley社の会長を務め、また、これまで豪州国内で数多くの会社を経営危機から救ってきた企業再生専門家としての実績も持っている。MGC社として、酪農家以外から会長が選ばれるのは初めてのことである。同社は、2月にもビール業界出身の新社長Ari Mervis氏が就任しており、Spark新会長とMervis社長の新体制にて同社の立て直しを図る。両氏とも経験豊富なビジネスマンであり、非常に深刻な問題を抱えた乳業会社を立て直すために両氏の手腕が問われるところである。

### ■ビクトリア州北部 集乳競争の激化

2月までの豪州の生乳生産量情報が更新された。7月から2月までの8ヶ月間の累計で豪州全体では前年比8.4%の減少となっている。このまま同じペースでいった場合、今シーズンの豪州生乳生産量は870万トン程度と予想され、900万トンを割り込むのは20年ぶりのこととなる。酪農家に支払われる乳価の低迷と、天候不順によって酪農家の生乳生産量が大幅に落ち込んでいる。豪州の生乳生産中、約65%を担うビクトリア州では、特に集乳量が落ち込んでいる。中でも降雨量が少なく暑い北部地域では、累計で前年比17.8%の減少となっており、北部だけで約20万トンの生乳が消失したことになる。この地域にはMGC社、Fonterra社、Bega/Tatura社の工場がひしめき合っている。とりわけFonterra社はStanhope工場のキャパシティを1.5倍に増強させる予定であり、追加で10万トンの集乳量が必要であるような話も聞こえてくる。Bega/Tatura社も販売が好調であり、生産量確保のために集乳量を伸ばす必要があり、北部の熾烈な集乳競争が顕在化している。

## A2ミルク社 Synlait社株買収

ニュージーランド(NZ)のA2ミルク社は、NZ上場乳業会社のSynlait社株8.2%をオランダ酪農乳業会社FrieslandCampina社から購入した。一株当たりNZD3,275で総額約37億円にて買収した模様。当株価は、NZ株式市場の平均価格よりも3%高い金額にて取引されている。A2ミルク社は、Synlait社と数年間の供給契約を結んでおり、今回の株の購入によりSynlait社との関係性を更に強めていくことが目的と思われる。A2ミルク社の業績は非常に好調であり、NZ、豪州での小売り牛乳のシェアを伸ばしている。また同社の売上の7割程度は育児粉乳商売となっていると思われ、育児粉乳については今後も主要販売先は中国向市場に依存している。中国の育児粉乳の輸入制度の変更など、中国向け商売のリスクが囁かれ始めている中で、中国向け商売の比率を一定におさえる乳業会社も出てきている。引き続き同社の動きが注視される。

### 豪州生乳生産量

単位:百万リットル

|                   | 2017年2月の生乳生産(前年同月比)   | 2016年7月～累計(前年同時期比)     |
|-------------------|-----------------------|------------------------|
| NSW               | 77.9 (-10.7%)         | 763.4 (-7.1%)          |
| Victoria          | 371.2 (-11.5%)        | 4,140.1 (-9.7%)        |
| Queensland        | 29.3 (-3.2%)          | 283.7 (+1.8%)          |
| South Australia   | 34.3 (-12.1%)         | 316.7 (-10.9%)         |
| Western Australia | 26.5 (-5.7%)          | 257.7 (-1.5%)          |
| Tasmania          | 68.1 (-3.9%)          | 594.6 (-6.3%)          |
| <b>Australia</b>  | <b>607.4 (-10.0%)</b> | <b>6,356.3 (-8.4%)</b> |

### ビクトリア州の地域別生乳生産量

単位:百万リットル

|                 | 2017年2月の生乳生産(前年同月比)   | 2016年7月～累計(前年同時期比)     |
|-----------------|-----------------------|------------------------|
| 東部              | 132.3 (-9.6%)         | 1,411.5 (-5.6%)        |
| 北部              | 115.7 (-20.4%)        | 1,212.1 (-17.8%)       |
| 西部              | 123.3 (-3.5%)         | 1,516.5 (-6.2%)        |
| <b>ビクトリア州全体</b> | <b>371.2 (-11.5%)</b> | <b>4,140.1 (-9.7%)</b> |

&lt;松本&gt;

## ■ 米国駐在員情報

### 2月の主要23州の生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると2月の主要23州の生乳生産量は712万7,800トンで前年同月比1.0%減となったが、うるう年修正後ベースでは2.5%増。先月発表の1月の生乳生産量は前年同月比2.7%増の771万8000トンで修正無し。

主要23州における2月の一頭当たりの平均搾乳量は約817.65キロと前年同月を約14.53キロ上回る数字となった。主要23州における2月の平均乳牛頭数は869万頭と発表され、これは前年同月比66千頭の増加であり、前月比では3千頭の増加となっている。

## 2月の全米生乳生産量

2月の全米生乳生産量は758万1,800トンで前年比1.2%減となったが、うるう年修正後ベースでは2.3%増。2月の一頭当たりの搾乳量は全米平均で約809キロとなり、前年を約15キロ上回った。2月の全米平均乳牛頭数は937万頭と発表され、これは前年同月比56千頭の増加であり、前月比では4千頭の増加となっている。

### 2017年2月主要州別生乳生産量(前年同月比)

|          |             |       |              |
|----------|-------------|-------|--------------|
| カリフォルニア州 | 141万7,388トン | -5.4% | (-8万358トン)   |
| ウィスコンシン州 | 105万4,642トン | -2.1% | (-2万3,154トン) |
| ニューヨーク州  | 52万284トン    | 0.2%  | (+908トン)     |
| アイダホ州    | 49万7,130トン  | -2.7% | (-1万3,620トン) |
| テキサス州    | 42万1,312トン  | 12.3% | (+4万6,308トン) |
| ミシガン州    | 38万9,986トン  | 1.2%  | (+4,540トン)   |
| ペンシルバニア州 | 38万9,532トン  | -0.7% | (-2,724トン)   |
| ミネソタ州    | 34万8,672トン  | -0.6% | (-2,270トン)   |
| ニューメキシコ州 | 28万9,198トン  | 7.8%  | (+2万884トン)   |

## 1月のバター、チーズ、NDM/SMP生産量

USDA発表のレポートによると1月のバター生産量は8万721トンで前年同月比1.2%増、前月比では8.5%増。1月のチーズ生産量は47万2,160トンで前年同月を3.7%上回ったが、前月比では1.2%減。1月のNONFAT DRY MILK (NDM)の生産量は7万370トンで前年同月比8,172トン(13.1%)増となったが、前月比ではほぼ変わらず。SMPの生産量は2万2,927トンで前年同月比1.4%減、前月比では7.6%減。12月末時点でのNDMの国内在庫数量は10万3,966トンで前年同月比1,180トン(1.1%)増となっている。

<佐藤>

## 中国駐在員情報

### 天津輸出入検疫検疫局、子供向け輸入発酵乳88ケースを廃棄

天津輸出入検疫検疫局がニュージーランドからの子供向け発酵乳を検査した結果、使用基準のあるビタミンA及びビタミンDを添加していることが確認され、当該製品は法律に従って違反品として廃棄された。情報筋によれば違反となった子供向け発酵乳は合計88ケース、110.88キロであった。輸出入検疫検疫局の職員が本製品のラベルを審査した際、ラベル上の原材料表示にビタミンA及びビタミンDが含まれていることを発見したものである。中国国家標準GB(国家標準の中国語読み Guojia Biaozhun の略)「食品栄養強化剤の使用基準」では、ビタミンA及びビタミンDを子供向け調整粉乳には添加可能であるが、子供向け発酵乳には添加不可としており、本製品には違反判定が下された。同検疫局は、消費者が輸入食品を購入する際に、外観及び包装、中国語ラベルの有無などを細かく確認することを呼び掛けている。また、消費者は販売側に検疫検疫機関発行の輸入証明の提示を要求することによりこれら事項を確認することも可能としている。

<西村>

## ■ 主要生産国の現行乳価

|        | 円換算乳価 <sup>※1</sup> | 直近の乳価                                          |             |
|--------|---------------------|------------------------------------------------|-------------|
| 日本     | ¥95.75/㍓            | ¥92.87/kg <sup>※2</sup>                        | (2017年1月)   |
| ドイツ    | ¥42.23/㍓            | EUR34.13/100kg                                 | (2017年1月)   |
| アイルランド | ¥43.38/㍓            | EUR35.06/100kg                                 | (2016年12月)  |
| オランダ   | ¥46.40/㍓            | EUR37.50/100kg                                 | (2016年12月)  |
| 米国     | ¥48.11/㍓            | USD18.90/100ポンド <sup>※</sup> (100ポンド=45.359kg) | (2017年1月)   |
| 豪州     | ¥32.92/㍓            | AUD4.95/kg MS(乳固形あたり)                          | (2016/17年度) |
| NZ     | ¥36.42/㍓            | NZD6.00/kg MS(乳固形あたり)                          | (2016/17年度) |

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。  
為替レート: EUR=¥120.00 / USD=¥112.00 / AUD=86.00 / NZD=78.50

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

## &lt;出典&gt;

日本 : 農畜産業振興機構

EU : European Commission

米国 : CLAL

豪州 : Murray Goulburn HP

NZ : Fonterra HP

お問い合わせ先：  
株式会社ラクト・ジャパン  
webmaster@lacto-japan.com

出典：  
 AGRA EUROPE 各誌  
 Dairy Dairy Report  
 Dairy Industry Newsletter  
 農畜産業振興機構“畜産の情報”  
 AMS Dairy Market News  
 日刊酪農乳業速報  
 Rice Dairy  
 NZ Herald  
 Stuff.co.nz  
 食品産業網  
 Weeklytimes  
 USDEC Export Trade Data  
 Global Trade Information Service  
 USDA's Dairy Market News  
 Australian Financial Review  
 食品産業サイト  
 経済日報  
 東方ネット  
 長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。